

九州国際大学附属高等学校生物研究部 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州市の動植物調査

2020年の取り組み内容

目的趣旨

フィールドワークを通じて、北九州市に生息する動植物を明らかにし、環境改善に役立てること。また、自然に精通した人材を育成すること。

活動内容

北九州市内のイエコウモリの生息状況の調査。
平尾台の洞窟棲コウモリの調査。
※2020年3月より、新型コロナウイルス感染予防のため洞窟調査の実施なし。

成果

これまでの活動を通じて、北九州市内においてイエコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリの生息を確認してきた。2017年にはキクガシラコウモリの出産保育コロニーを、2019年にはテングコウモリの生息を市内で初めて確認することが出来た。



北九州市全域のコウモリ類の生息実態を明らかにすること。

今後の展開

北九州市に生息するコウモリ類の、より詳細な分布状況を明らかにする。

NPO法人グリーンワーク 小倉北区

実施内容

活動名称 北九州みどりのじゅうたんプロジェクト
～保育園・幼稚園・小学校芝生化事業～

2019年の取り組み内容

目的趣旨

- ①子供達の健康増進と体力向上
- ②ヒートアイランド現象の抑制
- ③地域景観の向上
- ④地域コミュニティの形成
- ⑤環境教育の推進

活動内容

主な活動は、子供達、先生、地域の方々とNPOの協働作業で実施している。

- 保育園・幼稚園園庭芝生化事業
 - ・芝生環境紙芝居の実施
 - ・芝苗の植え付け
 - ・冬芝の種まき
 - ・ネイチャーゲーム(自然ビンゴ)の実施
- 小学校運動場芝生化事業
 - ・ポット苗の育成
 - ・ポット苗の植え付け
 - ・冬芝の種まき
 - ・肥料播き



園庭や運動場を芝生化することにより、ヒートアイランド現象の抑制や生物多様性に役立つことを紙芝居やゲームによりわかり易く子供達に伝えることが出来た。

課題

芝生化実施済みの園庭や運動場の管理方法の検討。

今後の展開

保育園・幼稚園では、更に環境教育を推進していきたい。小学校では地域の方々の参加による地域コミュニティの形成に力を入れたい。

小嶺水辺の教室(小嶺自治区会) 八幡西区

実施内容

活動名称 小嶺めだかまつり

平成29・30年度の取り組み内容

目的趣旨

里山の田んぼにつくられた水辺の教室(通称メダカ池)で、自然に親しみながら、絶滅危惧種メダカに対する理解と保護活動に取り組む。併せて、親子の自然の中でのふれあいや、地域住民の交流を深める。

活動内容

- ①メダカの保護と啓発活動、水辺の維持管理活動
- ②八児小学校・大原小学校の自然環境教育の支援、5年生のメダカの授業支援

成果

地元中心に広がりを見せている「めだかまつり」は、500名近くの大人・子どもを集める一大イベントになった。ここでメダカに親しみ、メダカに対する保護活動に目ざめてもらう、良い啓発活動の場になっている。



今後の展開

20年後まで、子供たちに人気のメダカすくいや、水辺の生き物と遊びが出来る様にめだか池を再生したい。活動するメンバーの高齢化で、新設の様には進まないと思われるが、何とか再生の道を探りたい。

NPO法人 里山を考える会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州里山トラスト会議

2019年の取り組み内容

目的趣旨

里山の自然でのさまざまな体験や保全活動等を通じて、人間と自然の共生について理解を深めていく。

活動内容

里山トラスト会議では、里山の自然維持・管理活動を中心とした活動を年20回程度行っている。具体的な活動としては、侵入竹の除去や下草刈り、遊歩道の整備、自然観察会などである。また、里山トラスト会議最大のイベントとして毎年11月に「里山祭」を開催している。森の中で料理、クラフト体験、里山さんぽ、音楽演奏会を実施するなど、普段あまり自然に接する機会が少ない方にも興味を持ってもらえるような活動を行っている。

成果

里山トラスト会議の活動は、今年で12年目となり、「都市と里山をつなげる活動」を続けている。今年は、若い世代である北九州市立大学の学生みなさんに参画いただき、間伐した竹材を活用してバイオリンやチェロなどの楽器を制作し、里山における放棄竹林などの問題をエコライフステージ2019等で演奏しながら伝える活動を実施することができた。



活動メンバーの高齢化が進んでいるため、活動を継続・発展させていけるような若い世代の参画が必要となっている。また、山での活動がメインとなるため、公共交通機関の少ない不便な場所が多い。参加者同士が乗合できるような、お互いに協力し支えられる仕組みづくりを行いたい。

今後の展開

今後はこれまでの活動実績をベースに、今年のように若い世代である大学生と連携した活動など新しい取り組みを継続して展開し、より多くの人が「自然との共生」について理解を深め、行動できるきっかけづくりを進めていきたい。

ジオ&バイオ研究会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州の多様かつ貴重なジオパーク資源を生かしたまちづくり

2020年の取り組み内容

目的趣旨

域内各地のジオパーク資源を学際的に調査研究し、できるだけ楽しく面白く解説(インタープリテーション)することにより、市民や観光客向けの学習資源化を図り、自然環境の維持保全ならびに北九州ジオパークの実現に貢献することを目指す。

活動内容

2011年の発足以来、毎年度月1回、月例会としての“楽習会”を実施。ジオパーク推進事業のイベントに参画し、これを支援する体制を強化している。シンポジウム等の開催を通じ、ジオパークの理解促進を行っている。

成果

博物館主催のジオツアーなどに支援参加するとともに各種団体の会合で活動を報告することにより、北九州の地質、地形、歴史などの観点から見た魅力を発信し、北九州ジオパークの認定に向けた意識の醸成が進んだ。先進ジオパークの訪問調査や関連図書の購入、活用で会員の知識を高めた。製作した「ジオかるた北九州」を活用して楽しく遊びながら北九州のジオについて解説できた。



「ジオかるた北九州」を使った「北九州のジオ(大地)の魅力を知ろう」講座(西門司市民センター)

ジオパーク推進において当研究会が要望に応えられる組織となるために、会員の知識力・行動力・発想力等の強化を図り、環境変容に柔軟に対応できる組織づくりを行っていききたい。

今後の展開

自然環境保全と北九州ジオパーク実現を後押しする市民団体として、今後の北九州ジオパークの手続きの進展をフォローしていきたい。また、SDGs活動の出前講座などで「ジオかるた」を活用して北九州のジオの魅力を発信していきたい。

女性植物友の会 小倉北区

実施内容

活動名称 自然観察

2019年の取り組み内容

目的趣旨

各地の貴重な自然や身近な北九州の自然を再認識する。

活動内容

最近環境の整備や道路補強など、又環境の温暖化によっても植物環境に変化があるのではないかと考えられます。普通に見られた路傍の草花も見かけなくなりました。山野の自然がますます貴重になります。私たちが自然観察を楽しみたいと思います。自然ネットの会のさかんな皆様のご研究も参考にさせて頂きたいと思っております。

成果

英彦山や金立公園(佐賀県)、九重男池などに出向いて各地の植物などを観察する例会を8回開催し、各地の自然に触れました。

課題

身近な自然を見つめる機会を多くつくりたい。



今後の展開

会員の高齢化が進んでいるが、楽しく、できる限り長く続けていきたい。そして、1人でも多くの同好の仲間を作りたい。

公益財団法人タカミヤ・マリバー環境保護財団 八幡東区

実施内容

活動名称 第35回紫川アユの放流祭

2020年の取り組み内容

目的・趣意

北九州市のシンボルである紫川へアユの放流を行い、アユの保護増殖を行う。同時に、地域の小中学生を含め放流祭に参加いただくことで、川や生き物を大事にする道徳心や地域を大切に愛する愛郷心を醸成する。

活動内容

紫川へのアユ放流。(今町市民センター前、長行、長尾の三箇所)

成果

約1万尾のアユを、紫川の三箇所(今町市民センター前、長行、長尾)に、地元の方々の協力をいただきながら放流を行った。

課題

本年は、新型コロナウイルス蔓延のため、アユ放流のみを地域の方々と一緒になって行った。新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、今後、子供たちに参加を促したい。



今後の展開

本年度は、アユの放流祭や例年開催しているシンポジウムも新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止とさせていただいた。来年度は状況を鑑みながら、イベント活動を徐々に実施していきたい。

福岡県立東筑高等学校生物部 八幡西区

実施内容

活動名称 コオロギの研究

2020年の取り組み内容

目的・趣意

生物や自然環境を理解することを目的に、身近な生物であるコオロギの形態や行動のしくみを研究している。

活動内容

令和2年度は元年度に引き続き、コオロギの行動について研究した。コオロギが他個体の行動を見て学習行動ができるのか、また、色を記憶できるのかの2テーマについて、タイムラプス撮影などを行い、考察した。研究成果は各種の科学コンクールで発表した。

成果

読売新聞社主催第64回日本学生科学賞福岡県審査において、2テーマとも最優秀賞を受賞した。また、学習に関する研究は、令和2年8月から10月にかけてウェブ上で開催された第44回全国高等学校総合文化祭に出場した。



Zoomを用いた県大会での質疑の様子

今後の展開

実験室内にとどまらずに自然観察を行って、自然環境下での生物の行動や生物種どうしの関わりについて研究を広げたい。

日本カブトガニを守る会福岡支部 小倉南区

実施内容

活動名称 カブトガニの産卵場所の清掃活動・産卵観察会

2020年の取り組み内容

目的・趣意

○曾根干潟のカブトガニの主要な産卵場所である朽網川河口の砂浜の環境整備。春から初夏にかけて発生し漂着する大量の海藻類は、そのまま放置すると腐敗してヘドロ化し、硫化物の発生で産卵や卵の発生に影響を与える。また、大量の漂着ゴミは、産卵行動を阻害したり、浜に堆積すると卵の発生や孵化に影響を与えたりするので、これらを撤去回収して産卵場の砂浜の健全化を図っている。
○産卵観察会を通して、曾根干潟の重要性やカブトガニの保護の必要性を知ってもらう。

活動内容

○7月23日(木・祝)「海の日」にカブトガニと海の未来を変える挑戦!をテーマに、朽網川河口海岸で支部主催の産卵観察会と漂着ゴミの回収活動を行った。新型コロナウイルスの感染対策をとりながら活動を通して海を守ることの大切さを学んだ。
○2月7日(日)国内有数のカブトガニの産卵場所である朽網川河口海岸の整備として、台風により流出した砂の補充を県が12月に行い、その後の砂ならし作業を東朽網まち作り協議会と共催で行った。
○年間を通して随時、当支部会員3~4名で漂着ゴミを回収し、砂浜の整備を行った。



成果

○7月23日(木・祝)積極的な広報はしなかったが、参加者が54名。守る会への入会も複数あり。ゴミ袋19袋(45L)回収。
○2月7日(日)ボランティア募集で地元住民からも多数の参加者あり、会員を含めて総勢45名。子どもの参加もあり。県土への要請も地元からの陳情により実現できた。
○会員以外の方で、日常的にゴミの回収や砂浜の整備を手伝って下さる方が増えた。

課題

漂着ゴミの量が増え、回収作業が追いつかず、産卵場所の確保が難しい時がある。

今後の展開

干潟の海藻類の異常繁茂は、ここ数年小康状態であるが、梅雨等の大雨が降った後に、東風が吹くと、河川から海へ出たゴミ類が干潟内に入り、砂浜に漂着する。このような現象はこれからも繰り返されると思われる。根本的な方策がない為、ゴミ、海藻類の撤去回収作業を来年度以降も地域と連携しながら続けていきたいと思う。

日本熊森協会 福岡県支部 八幡西区

実施内容

活動名称 皮むき間伐

2019年の取り組み内容

目的・趣意

・保水力の高い豊かな森のよみがえり
・動物たちのすみかのよみがえり
・都市と地元のつながりのよみがえり

活動内容

皮むき間伐は、県下の放置人工林を対象に女性や子供さんでも安全・安心に作業でき、本来の地域に根ざした森を理解していく活動でもあります。

成果

皮むきた木々は、約1年ほどで葉が枯れ落ちて空間が生まれ、そこから光が入り、植生の自然回復が始まり、徐々に多様性の森によみがえりつつあります。

課題

放置人工林は県下一杯ありますが、周知がいきわたっていない関係で皮むき間伐できる山の提供がまだまだ少ないです。

今後の展開

これから人類が生き残っていくためにも、空気と水は最重要な課題なので国民大運動となればと思います。



日本野鳥の会北九州支部 八幡東区

実施内容

活動名称 野鳥をシンボルとした自然保護活動

2020年の取り組み内容

目的・趣意

2020年はコロナ禍で活動できませんでしたが、例年は次の活動を行います。楽しい探鳥会、野鳥の生態を調べる調査・研究、野鳥の生息環境を守る保護活動を3本柱として取り組み、市民のみならずへの普及を図りながら、北九州市とその周辺をフィールドとして活動します。

活動内容

探鳥会：前年の2019年は、37回実施(参加者総数583名)
調査研究活動：ハチクマの渡り調査(探鳥会を兼ねる)、ガン・カモ・ハクチョウ類越冬調査、曾根干潟鳥類生息調査、鳥獣保護区内鳥類生息調査(福岡県委託による)を実施
保護活動：野鳥の違法な飼養・販売・捕獲の情報収集、風力発電が野鳥に与える影響の低減・回避のため関係機関と協議、曾根干潟の清掃活動
普及活動：小中学校、NPO団体、市民センター等への出張探鳥会や講座依頼に対応
機関誌発行：支部報「北九州野鳥」を年12回発行



市民センター行事に協力(曾根干潟での探鳥会)

成果

①探鳥会や調査を実施の結果、北九州市における野鳥の動向を把握
②保護活動の成果が表れていないが、野鳥の代弁者としての役割は果たしている
③出張探鳥会や室内講座では好評を得ている

今後の展開

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、市民のみならずと共に野鳥を通じて自然とふれあい、自然を守る活動をしていきたい。

響みどりの会 若松区

実施内容

活動名称 里山活動をとおりて自然の楽しさ・大切さを体験しよう

2019年の取り組み内容

目的・趣意

楽しみながら実践することで、私たちおよび将来の子どもたちの環境をまもることを目指す。

活動内容

○若松区安屋での竹林伐採・整備、果樹等の植樹を実施。
○「森のがっこう」を月2回程度開催し、自然観察会、竹の子ほり、サツマイモの植え付け・収穫祭、鬼ごっこ、木登りとティビの中で遊び等を実施した。

成果

「森のがっこう」では、タケノコ掘り会等を開催した。竹林伐採後に、植樹せずとも山桜、ねむ、椿、萩等が1.5ha位のところにそれぞれ数十本単位で自生してきたので、そのつるの除去、剪定に親子で取り組んでいく。この地域での生態の状況や生物多様性への問題点などを知ることができた。また、草や竹を使った遊びを発見していた。



地域の人や子供たちと連携して活動をすすめること

今後の展開

活動拠点である安屋の竹林整備をさらに進めていきたい。子供の環境学習と位置付けつつ若松地区の水とみどりの景観づくりについて地域の人たちと考えていきたい。

“平尾台・広谷湿原”ラムサール条約登録実行委員会 小倉北区

実施内容

活動名称 広谷湿原保全プロジェクト

2019年の取り組み内容

目的・趣意

カルスト台地平尾台には、存在するはずのない広谷湿原が存在する。その平尾台、広谷湿原を保全するため、ラムサール条約登録啓発活動を行っている。ラムサール条約は、水鳥を保全する条約であったが、1996年より生物多様性全体を保全する条約となっている。日本では、山口県の秋吉台がラムサール条約に登録されている。秋吉台と同じカルスト台地、そして広谷湿原のある平尾台をラムサール条約に登録しようと、活動をしている。

活動内容

〈研究発表〉
・広谷湿原ネザサのかきおこし(人為的攪乱)2011～2019 計9回実施
福岡県保健環境研究所、福岡県京築保健環境福祉事務所と協力
・ラムサール条約におけるカルストの地下湿地＝石灰洞
～平尾台+広谷湿原のラムサール登録をめざして～ の作成と発表
〈PR活動〉
・ラムサール条約登録啓発ポスターVer.2、2019年チラシVer.8
(A4両面)、2019年パンフレットVer.3(A3両面)の作成
・協賛、後援を北部九州の24団体からいただいている。
・北九州圏内の西鉄バス車内、下記イベントなどで2万枚以上の配布
・平尾台、広谷湿原案内:福岡県京築保健環境福祉事務所主催自然
観察会、九州高等学校理科教育研究大会(九州理科教員の大会)



活動内容

巡検研修、などなど。
・ラムサール登録アピール:井筒屋8F連絡通路、井筒屋クロスロードイベント、こども環境学会、福岡県環境教育学会、世界一行きたい科学広場、わくわくサイエンスキッズ、響灘ピオープラムサール月間アピール、エコライフステージ、ふくおか水もり自慢、などなど。

成果

2019年 2月 全国ユース環境活動発表大会 [東京・国連大学]第3位相当
2019年 5月 日本地球惑星科学連合会 パネル発表[幕張メッセ]
2019年 7月 全国高等学校総合文化祭 自然科学部門 口頭発表(佐賀大学)
2019年 9月 国際ソロプチミスト北九州 学生ボランティア表彰
2019年11月 福岡県生徒理科研究発表大会 自然科学部 最優秀
→2020年7月の全国高等学校総合文化祭 自然科学部門発表[高知]

深町どんぐりのもり保育所 若松区

実施内容

活動名称 さつまいもクッキングをする

平成28年度の取り組み内容

目的・趣意

自分たちで植物を育てながら、自然に親しむ。

活動内容

大切に育て収穫した野菜を使っのクッキングを楽しむ。
保育所の畑で夏野菜、さつまいもなどの野菜を育て、収穫したり、味わったりする。

成果

自分たちで野菜を育てることや収穫を楽しみ、それを調理したり食べたりすることにより喜びが増した。



課題

季節を通して野菜を育て、収穫が出来るようにしていく。

今後の展開

・四季折々の自然事象の変化を楽しませたい。
・子どもだけでなく、保護者も一緒に自然とのふれあいを楽しませたい。

NPO法人帆柱自然公園愛護会 八幡東区

実施内容

活動名称 植物ウォッチング

平成28年度の取り組み内容

目的・趣意

豊かな自然環境とそれを支える植物達の生態を探る。

活動内容

・年間9回、開催月の第1日曜日
・四季折々の植物観察で自然とふれあう

成果

・参加者143名 スタッフ延べ61名
・1年間継続された参加者は回を重ねるたびに植物観察のベテランへと成られていった。

課題

新しい植物ウォッチングコースを準備する。



今後の展開

・地道な活動を重ねる中で、着実に「自然を愛する心」を広めてゆきたい。

紫川河川塾 小倉南区

実施内容

活動名称 親父とボクの“うなぎ放流会”in中谷

2020年の取り組み内容

目的・趣意

・地域の大人や子どもに参加していただき、地元の山や川などの自然に触れることにより、自然保護の意識向上を図る。
・川と触れ合うことにより、川遊びの楽しさを知っていただくとともに、川遊びの危険も理解してもらう。
・川の楽校、山の楽校を開催して、山・川・水の大切さを理解する。

活動内容

紫川上流の旧道原小学校校庭で、うなぎの稚魚約100匹を放流。昼食には中谷地区まちづくり協議会女性部が作った、豚汁・おにぎりを食べた。

成果

中谷地区(すがお小学校校区)の児童、すがお放課後児童クラブ、児童福祉施設双葉学園の生徒、役員を含め約100名の参加となった。放流により、うなぎは増えているようだ。地域の人たちも時折うなぎ取りに行っているようである。



課題

全体としては多くの人に参加していただいたが、地元の児童や大人の方々の参加が少ない。各方面にもっとPRをして、地域をあげての活動にしたい。

今後の展開

うなぎの放流だけでなく、別の行事も行うようにしたい。以前、桜の植樹の行事を行ったが、今ではうなぎの放流会が定着している。

私たちの未来環境プロジェクト 戸畑区

実施内容

活動名称 水辺と森のふれあいプロジェクト

2020年の取り組み内容

目的・趣意

河川・道路等に漂着ゴミ・ポイ捨て等が増えてきていることから、ゴミ問題を解決するために清掃活動を行います。また生き物とのふれあいを通じて、私たちに自然が如何に大切なものであるかを自然観察(主に昆虫関係)を通して考えるきっかけを作ります。

活動内容

道路清掃活動、海岸周辺清掃活動(2ヶ月に1回ペースの活動)
自然観察(主に昆虫)(年2回程度)



成果

継続して実践して活動することにより老若男女問わず徐々に参加頂いています。

課題

「人を育てる人」を育てること。

今後の展開

点と点を結び線となり、やがて面への広がりとなるきっかけづくりを目指し続けていきます。

(公財)北九州活性化協議会もったいない総研 小倉北区

実施内容

活動名称 リサイクルトイレットペーパー「北九州紙えこっパー」による“もったいない”を未来に引き継ぐ事業

2020年の取り組み内容

目的・趣意

牛乳パック等の古紙リサイクルによる再生トイレットペーパー「北九州紙えこっパー(以下、「えこっパー」)」の開発、製造、販売・普及を通じて森林資源の保全、都市ごみの減量、製造エネルギーの節減を通じて社会に貢献し、SDGs達成に向けた地域住民の価値観の形成を通じて持続可能な市民参加型の地域循環型社会を目指します。

活動内容

①「えこっパー」の普及促進活動 (PR活動)
北九州市の各施設、北九州市内の百貨店、空港、ホテル等の大型施設および地元有力企業、金融機関等へ設置いただき、幅広く普及促進活動 (PR活動) を実施しました。
②環境教育への貢献
「北九州の企業人による小学校応援団」と連携し、牛乳パックリサイクルを活用した小学校での出前授業を実施しました。



成果

「えこっパー」販売数(1パック:6ロール)
令和元年度:190,784パック
令和2年度:118,616パック(令和3年1月末現在)
※販売開始からの累計販売数:3,645,632パック
(平成13年4月～令和3年1月)